

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400477		
法人名	有限会社しらゆり		
事業所名	グループホームしおさい風の詩		
所在地	いわき市久之浜町西2丁目7-8		
自己評価作成日	平成31年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成31年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に寄り添い、共に生活している意識で支援に取り組んでいる。 小規模施設ならではのきめ細かなサービスで、個々のニーズに答えながら信頼関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所や地域の行事を通して利用者と地域の方が積極的に交流し、利用者が地域の一員として自分らしく暮らしている。管理者は、職員の資質が向上するよう資格取得を積極的に働きかけ、利用者一人ひとりに寄り添い、その人に合ったケアができるよう取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・出勤時に事務所に掲げてある基本理念を確認する	開設時管理者と職員で考えた理念をもとに、思いやりをもってケアに取り組んでいる。利用者を尊敬する気持ちを持ち、呼びかけ方や接し方が失礼にならないように気をつけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・毎年 地区の行事に参加している。(お祭り、防災訓練等) ・ホームの行事にも地域の方を招待している。	小学生が訪れてダンスや歌、マジックを披露したり、クリスマス会で地域の方が楽器を演奏したり、地域と関わる機会を多くもっている。自主防災会にも参加し、協力体制を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・久ノ浜地区で試験的に行われている認知症カフェにも場所を提供したり協力体制をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・活動報告について幅広い意見やアドバイスをいただき実践につなげている。	区長から町の行事について提案があり、利用者が参加できるように準備をするなど、提案を活動につなげている。出席者からは、介護教室や介護職に関することなど多方面にわたる話があり、地域の取り組みを知るきっかけになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・推進費には必ず出席していただいている。また中地域ケア会議の一員として、活動している。	包括支援センターの担当者とかまめに連絡をとり、入居待ちの方の情報をもったり、事業所で困っていることを相談したりしている。認知症カフェなどの市町村の取り組みにも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間帯を除きなるべく施錠しないようにしている。 ・職員会議の時など、自分が気づかないうちに虐待につながる行為をしていないか話し合いをしている。	身体拘束はしないことを基本としている。ことばの拘束にも気をつけ、利用者を否定する言葉はつかかわないようにしている。利用者が外出したい様子の時は一緒に散歩にいくなど、鍵が開いていても安全にすごせるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員会議等で勉強する機会を設けている。 ・入浴時にボディーチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・制度の仕組みを理解し、状況に応じてアドバイスできるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所前に十分に説明し、理解同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見・ご要望箱を設けて、遠慮なく苦情も含めて要望が出せるようにしている。また面会にきたご家族とも密にコミュニケーションを取り、ご意見をいただける様配慮している。	家族の方と居室で、利用者の日ごろの生活状況を詳しく話したり、会話を通して意見や要望を聞くようにしている。落ち着きのない方には、家族の意向を聞き話し合い、理解してもらい対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・夜勤時などにゆっくりと話せる時間を作って、意見を聞いている。仕事のマニュアル等その都度変更できるようにしている。	清拭をするときに使う蒸しタオルの容器を、炊飯器にしてはとの提案があり、効果的に活用している。ティッシュペーパーが無駄にならないよう、布で袋を作り入れたらとの意見があり、椅子に掛けて個人で使用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・役職や責任のある仕事を任せることで、手当として支給している。 ・スキルアップの為の支援等環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・資格取得のためのシフト変更や、助成金を設けている。 ・外部の研修会にも参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他のグループホームの見学や地域の介護施設の職員との情報交換もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前にご家庭を訪問し、じっくりとお話を伺い、いろいろな提案をさせていただき安心していただける様に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の負担を少しでも軽減出来る様、じっくりとお話を伺い提案をさせていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・実調に伺ったとき、家庭環境も含め、本人や家族の要望にどのようなサービスができるか十分に話し合いをする。 ・他のサービスの利用も提案させていただく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ホームでの生活の中で、できる範囲での協力を求め、役割を持つことで共に助け合いながら生活している意識を 持てるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・必ず月に一度は利用料金の支払いを兼ねて面会に来ていただいている。行事への参加もしてもらい、共に支えあう立場を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族や友人の面会など、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。 ・予約制ですが、一緒に食事が出来る様 ご家族への食事の提供もしている。	訪問してくれる方には、居室で話をしてもらい、お茶などでもてなしをしている。友人の方と出かける時は家族に伝え、確認し外出してもらっている。馴染みの美容室に行きたいとの要望に応え出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士でも助け合えるような関係性を大事にしている。危険が伴わない程度で見守りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後も、時折訪問や面会に行き、ご家族へのアドバイス等させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の生活歴や環境等、十分に理解し介護計画に取り入れている。	折り紙の得意な方には折り方を教えてもらい話をするなど、心を開いてもらえるようにしている。利用者が自宅へ帰りたいとの思いを汲み取り、家族に伝え協力を働き掛け、叶えられるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族や以前入居していたサービスの方と連絡を密にとり、どのような環境で生活していたかを理解し、今後の介護計画につなげていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・職員が常に寄り添うことで、一人ひとりのペースをつかみ、無理強いせずリラックスして過ごせるよう配慮している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員会議等で、個別のケアを話し合い、またモニタリングを通して計画の変更につなげている。	本人・家族・計画作成担当者・職員が話し合い、その人に合った個別の介護計画を作成している。身体状況に応じて、医療機関と連携しその都度見直し、家族に変更内容を伝え共有し、柔軟な対応をするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録の記録の仕方等工夫し、書きやすく見やすくしている。 ・職員会議で情報の共有が十分か確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族の負担を軽減出来る様取り組んでいる。 ・病院付添(一部有料)や買い物代行(無料)など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事や活動に積極的に取り組んでいる。 ・町内の商店に買い物に連れて行ったり、外食を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・通常は往診で対応しているが、治療方針や服薬が変更になるときは、本人や家族に連絡し、同意を得てから治療にあたってもらっている。	本人や家族の希望に沿って、かかりつけ医や専門医を受診できるように支援している。受診内容によっては職員が付き添い、問診に協力している。先に診察券をだして待ち時間を短くするなど、利用者の負担を減らしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・往診や受診の際、適切に医師に状態を伝えられるよう、前もって準備をしている。医療機関との連絡記録を記入し、職員が情報を共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・協力医療機関に任せてはいるが、どのような状況にも対応できるよう、医療機関との関係を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人や家族が不安にならないよう、機能低下や病気の進行に伴い、当ホームで対応できなくなった場合、またそうなる可能性がある段階で、家族と連絡を取り合い、なるべく希望に添った方法での対策を検討している。	入居時に重度化や終末期について話をしている。状況が変化した場合には、医師、家族、事業所で話し合っ方針を決めている。職員は重度化した場合にも対応できるように日頃から理解を深め、利用者や家族の支えになれるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルの作成や訓練をしている。 ・職員全員が普通救命講習修了書を取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・ホームないだけの訓練だけでなく、地区の防災訓練にも参加している。 ・地区の自主防災会との合同訓練もしている。	消防署の助言で、床に物をおかないようにしている。避難訓練は、夜間や津波などさまざまな想定で行い、地域の方にも声をかけて参加してもらっている。実際の津波警報の際にも、短時間で安全に高台に避難することができて、日頃の訓練が活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・理念にも掲げられているが、常に人生の先輩として敬い、慈愛の心を持ってケアにあたっている。	利用者の入居前の生活や性格を把握し、利用者の気持ちを考えて行動するようにしている。利用者同士が言い合いになりそうな時は、場所をかえたり話しかけたりして、お互いに傷つくことがないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・様々な場面で選択の機会を持てるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々特別な事をするのではなく、～しよう と言う言葉を引き出せるように環境の整備に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問美容サービスを利用しているが、かかりつけの美容室でパーマや白髪染などの送迎もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の支度や後片付け等積極的に参加してもらっている。 ・献立リクエストも受付、献立に取り入れている。	季節の食材を取り入れて、利用者と職員で献立を決めている。食欲が増すように彩りを考え、食器や盛り付け方も工夫し、同じメニューでも分量を変えるなど、利用者の好みに配慮している。職員と利用者が話をしながらゆっくり食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事・水分の摂取量は常に記録し、足りない部分は補えるようにしている。また個別にところみをつけるなど摂取しやすい工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、居室にて口腔ケアをしている。 ・状態に応じて職員がお手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意、便意が鈍くなくても、声掛けやといれに誘導することで失禁を減らすように取り組んでいる。 ・オムツ使用で入居された方も、リハビリパンツに切り替えて柔軟に対応している。 	本人の生活リズムに合った、個別の排泄支援をしている。自立排泄のできる方には、見守りし排泄後知らせてもらい、確認・記録している。失敗したときは、本人が傷つかないよう、周囲に気づかないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排便観察や記録により状態を把握し、便秘にならないよう配慮している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に曜日はきまっているが、希望があればその都度シャワーなどで対応している。 	利用者の体調に合わせた入浴支援をしている。入浴の困難な方には、家族と話し合い、シャワー浴などで対応するようにしている。嫌がる方には、蒸しタオルで清拭する等、衛生面に配慮し清潔に過ごせるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・夕食ごはなるべくゆったりとした時間を過ごしてもらい、自然な入眠につながるよう個々に対応している。 ・無理に寝かせる様な事はしない。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬ファイルを作成し、職員全員が把握できるようにしている。 ・担当責任者を置くことで、状況を確認し医療機関との円滑な連携に繋げている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味や特技を發揮できる環境を整え、いきいきと活動出来る様にしている。リクレーションや、あるいは仕事として雑巾縫いや家庭菜園、草引きなどもしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に散歩や近所の商店へ出かけ、地域の方々との交流が持てる様に取り組んでいる。 	利用者が事業所の中だけで過ごさないよう、日常的に外出できるよう支援している。季節を感じてもらえるよう、花見など遠方へ出かける時は、トイレの確認や時間を計ったりし、安全に出かけられるよう下見をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理は難しい場合も多いが、可能な限り買い物時の支払いを行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の取次ぎや、切手などの買い物やポストへの投函などお手伝いをしている。 ・携帯電話の持ち込み使用もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・様々な活動が出来る様、用途に応じて場所を使い分け出来るようにしている。季節ごとのお花を飾ったりしている。	利用者と職員が一緒に作った、季節の感じられる作品が飾られている。テーブルがいくつかあり、好きな場所を選んでもらい、居心地良く過ごせるようにしている。感染症予防に、手すり・トイレなどを消毒液で拭いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・小上がりのコタツスペースを含め3か所に分かれることができるため、それぞれが気の合ったもの同士で楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	・居室は自らの愛用品などを持参してもらい、家族の写真を飾ったり、作品を飾ったりしている。	危険なもの以外は、自由に持ち込んでもらっている。コルクボードに家族や行事の写真・作品が飾られ、取り替えたりしその人に合った居室で過ごせるようにしている。洗濯物の出し入れは、確認しメモ帳に記入している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーは勿論のこと、トイレの表示や居室入口の目印など、自分で行動出来る様配慮している。		